

大手柄は最大の「汚点」だった

県警が 密輸をさせた!



史上最大のヤラセ拳銃押収

警察庁は8月5日、『平成16年上半期の薬物・銃器情勢』を公表した。

これによれば、へけん銃の押収丁数は、平成7年に1880丁を押収して以降漸減傾向が続いている。本年上半期における押収丁数は339丁で昨年同期(392丁)より53丁(13・5%)減少したという。一方、銃器使用事件の認知件数は280件で、上半期としては平成8年以降最多となった昨年同期(221件)より59件(26・7%)増加しているという。

ところが、この文書は、銃器使用事件が大幅に増えているのに、拳銃の押収丁数はピーク時の半数以下になっている理由についてはいっさい説明していない。なぜなのか?

警察庁が説明できないワケはハッキリしている。平成7年(96年)当時、警察庁は「暴力団と取引してでも、拳銃の押収丁数を増やせ」と全国の警察本部に指示しており、そのために押収丁数が水増しされていたにすぎないからだ。

▲「タナカ」なる偽名を使って拳銃・大麻の密輸を取り仕切った兵庫県警の小林治警部。過去、暴力団との癒着が問題となって処分もされたが、現在、姫路署刑事第一課長にまで出世している

この年の4月、警察大学校で講習を受けた今村邦男・元愛媛県警生活保安課課長補佐(現・松山市議会議員)は、こう証言する。

「講師は『遠くのシャブ(覚醒剤)より近くのチャカ(拳銃)』と、われわれに指導していました。『暴力団の薬物事犯を見逃しても、その見返りに拳銃を提供してもらえばいい』という意味です。

当時、『匿名の通報があった』とコインロッカーを調べたところ、中から拳銃が見つかった。などという押収劇が全国で相次ぎましたが、これらはすべてヤラセ。警察と暴力団

との取引による出来レースだったんです」

警察史上最大のヤラセ拳銃押収は、そんな状況下で行われた。『警察白書・平成7年版』には特筆すべき成果として、次のように掲載されている事件だ。

(平成6年)9月、タイ人船員(28)が、日本にけん銃を運ばば金になると思い、けん銃61丁と実包254個を麻袋に入れて自己の乗船するタイ船籍の貨物船の中に隠して、タイから密輸したところを直ちに検挙(兵庫)

密輸入事件に限れば、平成6年に押収された拳銃は全国で64丁。うち61丁がこの事件で押収された。当時、新聞やテレビはこれを「兵庫県警の

取材：文／寺澤有津田哲也

「タイから密輸された拳銃61丁を水際で押収」。警察庁が自画自賛し、マスコミが大手柄だともてはやした空前の拳銃大量押収劇は、兵庫県警が組織ぐるみで仕組んだ「ヤラセ」だった。しかも、この「快拳」をデッチ上げるために、兵庫県警の警察官らは、末端価格約1億円の乾燥大麻20kgの密輸にまで手を染めていたのだ。

兵庫

拳銃&大麻

驚愕スクープ
告白



大手柄」として報じている。が、この事件は警察と暴力団との癒着の産物に他ならなかった。それも「稲葉事件」(稲葉圭昭・元北海道警警部が暴力団と癒着し、拳銃の押収丁数を稼ぐ一方、拳銃や薬物、盗難車の密輸、売買などにも手を染めていたというもの。昨年、稲葉元警部は懲役9年の刑が確定し、服役中)以上の悪質さの。

* * *
94(平成6)年9月10日、タイ船籍の貨物船・ハイスーン号の乗組員、サデュット・

グリーンオップ氏(当時28歳)は、大阪府泉大津市の堺泉北港で、拳銃61丁と実包(弾丸)254個を所持していたとして銃刀法違反などの現行犯で

密輸の主犯は現職警察官

サデュット氏は起訴され、その後の裁判で、「私は『タナカ』『フジモト』と名乗る二人の日本人から頼まれて拳銃を密輸しただけだ。主犯はこの二人だ」と主張した。裁判所も「タナカ」「フジモト」が主犯であることは認めたが、二人に捜査の手が及ぶことはなく、96年11月25日、最高裁で懲役10年の刑が確定、サデュット氏は服役している。実は、タナカは兵庫県警の小林治警部(54歳、現・姫路署刑事第1課長)、フジモトは捜査関係者の間では有名な、タイを拠点とする密売人だった。大阪府警の現職警察官が言う。「フジモトの本名は佐輔正幸(53歳)。兵庫

逮捕された。当時の報道によれば、「匿名の密告電話があり、兵庫県警は100名近い捜査員で張り込んでいた」という。

犯罪を見逃してもらおうかわりに捜査協力する人物)や。拳銃61丁押収や? 笑わせたらアカン。アレは兵庫県警と佐輔が組んで、サデュットに拳銃を密輸させたんや。サデュットだけがハマられて逮捕されただけの話やで。誰が『匿名の密告電話』ぐらいで、100人近い捜査員を動かせるかいな」

県警の協力者(自分の

事件の真相は闇に葬られるはずだった。ところが97年8月16日、佐輔氏が大阪府警に大麻取締法違反などの容疑で逮捕されたことで、事態は動いた。佐輔氏は翌98年11月12日、大阪地裁堺支部で懲役13年の判決を受け、控訴する。そして、第2審の大阪高裁で、警察に対する不信任感から「自分は兵庫県警の協力者だった」と暴露したのだ。以下、公判の被告人質問の

▲小林警部らの依頼で2度の密輸を請け負い、日本で懲役刑に服したタイ人、サデュット・グリーンオップ氏は、ついに重い口を開いた(写真上)。ズラリと並んだ61丁の押収拳銃。兵庫県警が誇らしげにマスコミに公開したこの成果は、実は「ヤラセ」の賜物だった

BLUE BACKS なんでも測定団が行く

はかれるものはなんでもはかるう

武威工業大学

光の速さ、石油の埋蔵量等世の中の現象をはかつてわかる新事実。講談社

速記録から佐舖氏の発言を要約、補筆し、列挙する。

平成3年7月位から兵庫県警の協力者になりました

兵庫県警と接触するときの窓口は小林治警部

拳銃61丁の押収にも協力しました

私が協力して検挙できたときに、兵庫県警から10万円や20万円をもらったことがあります。金額は気にしません

小林警部のほかに(その先輩で、現・兵庫県交通安全課長の)西田利男警視とも接触していました

へ府県で何か(逮捕されるようなことが)あった場合でも、兵庫県警が助けてくれるという約束でした

しかし服役前、佐舖氏は筆者と何通もの手紙をやりとりし、拳銃61丁押収事件の真相を打ち明けていた。その核心部分が以下である。ほぼ原文のまま引用しよう。

へス(S.P.Y)の頭文字で『協力者』と同義)の密売で大きく儲けた資金で、次に押収する物を買って、それを密

内でもやるわけだから、1回目の取り引きは絶対成り立つわけです。そして、このブツはエスがさばくわけです。

警察あげて日本一になる検挙をしようと思えば、1回目の取り引きも、次のブツを買うため、半端じゃない仕入れ方をします。そして、エスがさばいて、儲けた金で次なる目的の品を買いつけに行くわけです

この記述が本当であれば、サデュット氏は拳銃61丁の密輸以前に、兵庫県警公認で何かを密輸したことになる。

さらに佐舖氏は、兵庫県警の関与について明かす。

へヤラセで逮捕した(サデュット・)グリーンオップのことを懸念して、平成7年、淡路

阪神大震災の2日前、1月15日ごろ、西田警視から電話があり、私と西田、宇原(逸郎警視)の3人で、この問題について、(新)神戸オリエンタルホテルの上階、そのラウンジで話し合った

宇原警視(現・佃全国道路標識・標示業協会関西支部事務局長)、西田警視、小林警部らのグループにとって重要な協力者だった佐舖氏は、大

内でもやるわけだから、1回目の取り引きは絶対成り立つわけです。そして、このブツはエスがさばくわけです。

警察あげて日本一になる検挙をしようと思えば、1回目の取り引きも、次のブツを買うため、半端じゃない仕入れ方をします。そして、エスがさばいて、儲けた金で次なる目的の品を買いつけに行くわけです

この記述が本当であれば、サデュット氏は拳銃61丁の密輸以前に、兵庫県警公認で何かを密輸したことになる。

さらに佐舖氏は、兵庫県警の関与について明かす。

へヤラセで逮捕した(サデュット・)グリーンオップのことを懸念して、平成7年、淡路

阪神大震災の2日前、1月15日ごろ、西田警視から電話があり、私と西田、宇原(逸郎警視)の3人で、この問題について、(新)神戸オリエンタルホテルの上階、そのラウンジで話し合った

宇原警視(現・佃全国道路標識・標示業協会関西支部事務局長)、西田警視、小林警部らのグループにとって重要な協力者だった佐舖氏は、大

内でもやるわけだから、1回目の取り引きは絶対成り立つわけです。そして、このブツはエスがさばくわけです。

警察あげて日本一になる検挙をしようと思えば、1回目の取り引きも、次のブツを買うため、半端じゃない仕入れ方をします。そして、エスがさばいて、儲けた金で次なる目的の品を買いつけに行くわけです

この記述が本当であれば、サデュット氏は拳銃61丁の密輸以前に、兵庫県警公認で何かを密輸したことになる。

密売人に逃走資金まで渡して

輸入させ、検挙する警察のやり方を知っていますか?

だが、その運び屋を検挙するには、前提があります。2回目には、その運び屋はバクル(逮捕する)のだから、1

回目の取り引きでブツを運ばせ、たんまりと礼金を支払うわけです。この取り引き現場は当然、サツ(警察)の監視

阪府警に逮捕されるまで、兵庫県警の手助けで逃亡生活を送っていた。

私が逮捕されるまでの間、(兵庫)県内のマンション等を6回変えております。この6回のうち3回は警察(兵庫県警)から指示されたマンションだったわけです

小林警部が平成8年11月、すでに私は全国に(指名)手

事件から10年。サデュット氏は一昨年11月に仮釈放となり、タイへ強制送還されていた。現在是不動産会社に勤務しているという。筆者はタイへ飛び、彼に計20時間に及ぶインタビューを行った。

まず、彼に97年撮影の小林警部の顔写真を見せる。彼は開口一番、こう言ったのだ。「この人はタナカさん間違いないありません」

小林警部は鼻の左側にホクロがあり、サデュット氏もそれをよく覚えていた。

サデュット氏とタナカとの出会い、拳銃を密輸するまでの経緯は、裁判では次のように認定されている。

「タナカに間違いありません」

へ(ハイスーン号が)平成6年8月4日ころ神戸港に寄港した際、タナカと名乗る者から、日本円で100万円(その後120万円に増額)の報酬を支払うとの約束で貨物の運搬を依頼され、同月28日ころその依頼を承諾し、(タイの港で)タナカの仲間と目されるタイ人の男とともに貨物を同船に運び込んだのち、荷物の中身がけん銃及び実包であることを告げられた

だが、事実は違ったようだ。サデュット氏とタナカは94年8月以前に出会っており、佐舖氏の手紙が指摘するように、やはり別の密輸を成功させていたというのだ。サデュ

配になる前日ですが、私の逃走資金として30万円を長崎まで持ってきて、長崎空港で会い、その後、長崎市内で飲み食いして、翌日、平成8年11月10日の飛行機で大阪空港に帰っていった(佐舖氏は長崎県に実家がある)

佐舖氏は兵庫県警の警官とのやりとりを録音したテープの存在もほのめかしていた。

サデュット氏とタナカは94年8月以前に出会っており、佐舖氏の手紙が指摘するように、やはり別の密輸を成功させていたというのだ。サデュ

配になる前日ですが、私の逃走資金として30万円を長崎まで持ってきて、長崎空港で会い、その後、長崎市内で飲み食いして、翌日、平成8年11月10日の飛行機で大阪空港に帰っていった(佐舖氏は長崎県に実家がある)

佐舖氏は兵庫県警の警官とのやりとりを録音したテープの存在もほのめかしていた。

サデュット氏とタナカは94年8月以前に出会っており、佐舖氏の手紙が指摘するように、やはり別の密輸を成功させていたというのだ。サデュ

配になる前日ですが、私の逃走資金として30万円を長崎まで持ってきて、長崎空港で会い、その後、長崎市内で飲み食いして、翌日、平成8年11月10日の飛行機で大阪空港に帰っていった(佐舖氏は長崎県に実家がある)

佐舖氏は兵庫県警の警官とのやりとりを録音したテープの存在もほのめかしていた。

六岸示言が宇原&大麻を密輸させた

ツト氏の、まさに当事者しか知り得ない「秘密の暴露」は、以下の通りである。

94年5月ごろ、ハイストーン号が神戸港に寄港しました。私が船を下りて岸壁にいますと、「タナカ」と名乗る日本人から、

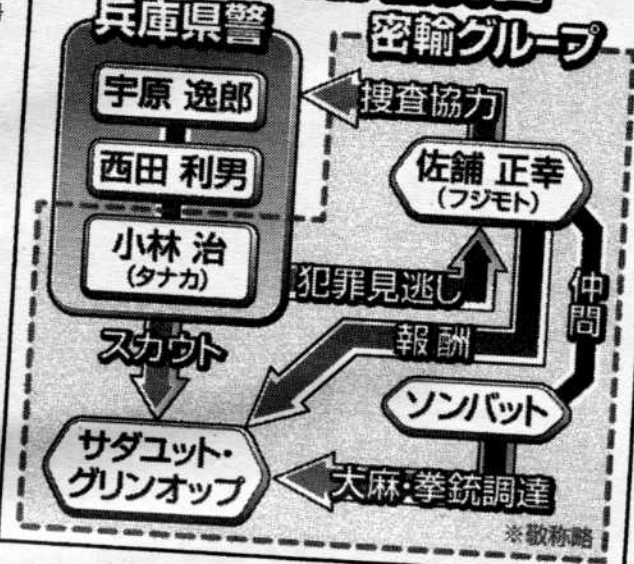
「ビジネスに関心がないか」と声をかけられたのです。タナカに誘われ、彼の車で食事に行くことになりました。

港内を猛スピードで走っていたため、(神戸)税関の車に止められたのですが、タナカは「心配するな」と車を降り、税関職員と何か話しました。すると、われわれはすぐに解放されたのです。

三宮(兵庫県神戸市)の和食店でビールを飲み、カニを食べながら話しました。タナカは私に言いました。

「フジモトという大麻のビジネスをやっているヤツがいる。タイにはソンバットというフジモトの仲間もいる。自分も何回もタイへ行った。もし仕事をしてくれれば、100万円を支払う。タイへ戻ったら、ソンバットに電話してみてくれ」

登場人物相関図



タイに帰ると、私は言われたとおりソンバットに電話し、彼に会いました。するとソンバットは、

「覚醒剤の見本を日本へ届けてほしいんだ」と言ってきたのです。その後、フジモトからこんな電話もかかってきました。

「船には覚醒剤の隠し場所があるはずだ。よろしく頼む」しかし、結局彼らは覚醒剤を手でできなかったようで、ハイストーン号が日本に発つ直

小林警部は慌てて大麻を拾い集めた

前、ソンバットは港まで乾燥大麻入りのバッグを持って来たんです。

その乾燥大麻は上物で、阿片で燻してあるため臭いが強かった。私はエンジン室近くにそれを隠しました。その場所はとても暑く、まず人が来ることはないからです。6日後、堺泉北港に着き、

フジモトに電話しました。午後3時頃、彼がハイストーン号にやって来たので、船内の部屋に通しました。彼の顔を見たのはこれが初めてです。

「何時に取りに行くのか?」と聞くと、フジモトは、「夜の12時頃だ」と言いました。

「(大麻は)20kg(末端価格約1億円)だな?」

と聞いてきましたが、正確な量がわからなかったため、「バッグいっぱい」と答えました。

フジモトは、「タナカが外の車で待っている。午後6時に待ち合わせて食事しよう」と船を下りていきました。

午後6時、フジモトがタナカを助手席に乗せ、白い車で港に現れました。私もそれに乗り込み、しばらく走って、ショッピングセンター内の中華料理店に入りました。

そこでフジモトは、「私が船上がってバッグを受け取るの難しい」と言い出しました。3人であれこれ相談し、私が船から港にバッグを投げ落とすことにしたので。

見下ろすと、釣り人の格好をしたタナカとフジモトが、多くの釣り人に混じって港に座っていました。

午前2時頃、釣り人が一人しかいなくなると、フジモトが「バッグを投げろ」というジェスチャーをしてきました。

私は船からバッグを投げ落としたんですが、衝撃でバッグが破れてしまい、大麻の袋がいくつか飛び出してしまったんです。タナカ、フジモトはそれを慌てて拾い集め、車のトランクへ放り込み、走り去りました。

約30分後、再びフジモトがハイストーン号の私の部屋を訪ねてきて、帯付きの新札で100万円を手渡ししてくれました。フジモトは、

「タナカが待っているから」と、すぐ立ち去りました。

先の『警察白書・平成7年版』によれば、この年(94年)の乾燥大麻の押収量は約94kg。20kgがいかに大量かがわかる。小林警部と佐舗氏が持ち去った大麻は、その後警察に押収されることもなく、日本の「市場」に散らばっていた。

(以下次号)